

決算額と財務比率の推移

(令和 2 年度～令和 6 年度)



学校法人 聖徳学園

はじめに

学校法人会計は、学校法人の経営状態を社会に対してよりわかりやすく説明すること、そして適切な学園経営の判断に役立つものとするを趣旨としています。この趣旨を踏まえ、経営判断の指標である「財務比率」に着目し、指標について解説を加え、学校法人会計基準への対応に資することとしています。

学校法人における経営のあり方は多様であり、計算書類による指標のみで学園を評価できないことはいふまでもありません。しかし、会計基準に従って活動区分ごとの資金の流れや経常収支と臨時的収支を明確化することによって、学校法人の財務情報は、今後より一層、学生や保護者をはじめ社会からの分析や評価を受けることとなり、そのことは学園経営に少なからず影響を及ぼすものと考えられます。

決算額の推移

- ・ 資金収支の状況（令和2年度～令和6年度）・・・・・・・・・・ 1 頁
- ・ 活動区分資金収支の状況（令和2年度～令和6年度）・・・・・・・・ 2 頁
- ・ 事業活動収支の状況（令和2年度～令和6年度）・・・・・・・・・・ 3 頁
- ・ 貸借対照表の状況（令和2年度～令和6年度）・・・・・・・・・・ 4 頁

財務比率の推移

- ・ 財務比率推移表（令和2年度～令和6年度）・・・・・・・・・・ 5～6 頁
- ・ 財務比率推移グラフ
 - 〔事業活動収支計算書関係比率〕（令和2年度～令和6年度）・・・・ 7～8 頁
 - 〔貸借対照表関係比率〕（令和2年度～令和6年度）・・・・・・ 9 頁
 - 〔活動区分資金収支計算書関係比率〕（令和2年度～令和6年度）・・・・ 9 頁
- ・ 事業活動収支計算書関係比率の意味・・・・・・・・・・ 10～11 頁
- ・ 活動区分資金収支計算書関係比率の意味・・・・・・・・・・ 12 頁
- ・ 貸借対照表関係比率の意味・・・・・・・・・・ 12～16 頁

資金収支の状況（令和２年度～令和６年度）

【新会計基準】

（単位：千円）

科 目		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,921,014	4,826,775	4,783,691	4,613,067	4,506,769
	手数料収入	114,395	116,650	105,836	99,017	95,723
	寄付金収入	39,330	46,203	40,748	42,538	35,381
	補助金収入	1,161,467	1,124,808	1,209,034	1,136,925	1,206,476
	国庫補助金収入	495,639	485,619	557,796	496,895	560,875
	地方公共団体補助金収入	665,828	639,189	651,238	640,030	645,601
	資産売却収入	421,870	337,250	383,972	667,954	500,672
	付随事業・収益事業収入	97,840	95,413	99,298	107,746	108,673
	受取利息・配当金収入	12,711	20,823	14,303	16,080	30,695
	雑収入	172,691	218,138	155,035	219,128	158,086
	前受金収入	848,821	829,400	765,920	746,295	767,603
	その他の収入	436,461	389,393	784,078	305,145	346,705
	資金収入調整勘定	△ 1,057,879	△ 1,028,220	△ 955,189	△ 931,344	△ 912,663
	前年度繰越支払資金	2,450,354	2,104,367	1,592,540	1,834,350	2,302,167
	収入の部合計	9,619,075	9,081,000	8,979,266	8,856,901	9,146,287
支出の部	人件費支出	3,702,452	3,773,319	3,682,509	3,712,015	3,626,258
	教育研究経費支出	1,505,806	1,538,666	1,639,446	1,622,490	1,716,562
	管理経費支出	392,548	418,096	434,529	468,494	501,423
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	223,034	393,073	142,787	8,558	182,057
	設備関係支出	275,162	250,525	112,617	66,140	130,074
	資産運用支出	1,124,329	924,376	818,135	520,054	799,376
	その他の支出	565,838	513,005	552,695	459,027	490,621
	資金支出調整勘定	△ 274,462	△ 322,600	△ 237,802	△ 302,043	△ 210,658
	翌年度繰越支払資金	2,104,367	1,592,540	1,834,350	2,302,167	1,910,574
	支出の部合計	9,619,075	9,081,000	8,979,266	8,856,901	9,146,287

※百円の位を四捨五入し、千円単位で記入しています。（以下、同じ）

活動区分資金収支の状況（令和２年度～令和６年度）

【新会計基準】

（単位：千円）

	科 目		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,921,014	4,826,775	4,783,691	4,613,067	4,506,769
		手数料収入	114,395	116,650	105,836	99,017	95,723
		寄付金収入	21,185	27,307	25,327	27,140	18,207
		経常費等補助金収入	1,139,712	1,110,457	1,197,154	1,134,502	1,151,947
		その他収入	250,341	292,582	223,345	305,106	249,852
		教育活動資金収入計	6,446,647	6,373,771	6,335,353	6,178,832	6,022,498
	支出	人件費支出	3,702,452	3,773,319	3,682,509	3,712,015	3,626,258
		教育研究経費支出	1,505,806	1,538,665	1,639,446	1,622,490	1,716,562
		管理経費支出	391,428	417,721	432,131	465,614	498,275
		教育活動資金支出計	5,599,686	5,729,705	5,754,086	5,800,119	5,841,095
	差引		846,961	644,066	581,267	378,713	181,403
	調整勘定等		△ 101,226	8,759	△ 106,040	△ 8,883	△ 32,256
	教育活動資金収支差額		745,735	652,825	475,227	369,830	149,147
	施設設備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	21,756	14,351	11,879	2,423
その他収入			18,255	19,076	15,421	15,584	17,173
施設設備等活動資金収入計			40,011	33,427	27,300	18,007	71,702
支出		施設・設備関係支出	498,197	643,598	255,404	74,698	312,131
		特定資産繰入支出	17,496	17,338	17,387	17,054	17,003
		施設設備等活動資金支出計	515,693	660,936	272,791	91,752	329,134
差引		△ 475,682	△ 627,509	△ 245,491	△ 73,745	△ 257,432	
調整勘定等		△ 19,100	2,159	4,189	△ 2,093	△ 52,859	
施設整備等活動資金収支差額		△ 494,782	△ 625,350	△ 241,302	△ 75,838	△ 310,291	
小計		250,953	27,475	233,925	293,992	△ 161,144	
その他の活動による資金収支	収入	その他収入	680,490	585,668	1,024,663	876,369	709,469
		受取利息・配当金収入	12,711	20,823	14,303	16,080	30,695
		その他の活動資金収入計	693,201	606,491	1,038,966	892,449	740,164
	支出	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
		その他支出	1,290,141	1,145,793	1,031,082	718,625	970,612
		借入金等利息支出	0	0	0	0	0
		その他の活動資金支出計	1,290,141	1,145,793	1,031,082	718,625	970,612
	差引		△ 596,940	△ 539,302	7,884	173,824	△ 230,448
	調整勘定等		0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額		△ 596,940	△ 539,302	7,884	173,824	△ 230,448
	支払資金の増減額		△ 345,987	△ 511,827	241,809	467,816	△ 391,592
	前年度繰越支払資金		2,450,354	2,104,367	1,592,540	1,834,349	2,302,166
翌年度繰越支払資金		2,104,367	1,592,540	1,834,349	2,302,166	1,910,574	

事業活動収支の状況（令和２年度～令和６年度）

【新会計基準】

（単位：千円）

科 目			令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	4,921,014	4,826,775	4,783,691	4,613,067	4,506,769
		手数料	114,395	116,650	105,836	99,017	95,723
		寄付金	24,612	30,164	26,430	30,477	18,814
		経常費等補助金	1,139,712	1,110,457	1,197,154	1,134,502	1,151,947
		付随事業収入	77,840	75,413	79,298	87,746	93,673
		雑収入	172,501	218,044	145,429	217,485	186,888
		教育活動収入計	6,450,074	6,377,503	6,337,838	6,182,294	6,053,814
	事業活動支出	人件費	3,717,571	3,787,919	3,746,413	3,747,006	3,673,854
		教育研究経費	2,130,212	2,192,319	2,294,363	2,243,107	2,303,262
		管理経費	431,137	482,353	512,291	547,743	580,290
		徴収不能額等	10,793	6,612	8,062	10,527	9,164
		教育活動支出計	6,289,713	6,469,203	6,561,129	6,548,383	6,566,570
教育活動収支差額		160,361	△ 91,700	△ 223,291	△ 366,089	△ 512,756	
教育活動外収支	事業活動収入	受取利息・配当金	12,711	20,823	14,303	16,080	30,695
		その他の教育活動外収入	20,000	20,000	20,000	20,000	15,000
		教育活動外収入計	32,711	40,823	34,303	36,080	45,695
	事業活動支出	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		32,711	40,823	34,303	36,080	45,695
経常収支差額		193,072	△ 50,877	△ 188,988	△ 330,009	△ 467,061	
特別収支	事業活動収入	資産売却差額	52,286	49,249	7,795	3,700	0
		その他の特別収入	60,879	52,947	46,666	34,602	92,936
		特別収入計	113,165	102,196	54,461	38,302	92,936
	事業活動支出	資産処分差額	19,717	46,845	40,338	23,040	14,231
		その他の特別支出	1,121	375	2,397	2,879	3,148
		特別支出計	20,838	47,220	42,735	25,919	17,379
	特別収支差額		92,327	54,976	11,726	12,383	75,557
基本金組入前当年度収支差額		285,399	4,099	△ 177,262	△ 317,626	△ 391,504	
基本金組入額合計		△ 422,916	△ 524,643	△ 150,655	△ 10,760	△ 158,395	
当年度収支差額		△ 137,517	△ 520,544	△ 327,917	△ 328,386	△ 549,899	
前年度繰越収支差額		△ 6,043,244	△ 6,177,633	△ 6,639,041	△ 6,964,685	△ 7,178,952	
基本金取崩額		3,128	59,136	2,273	114,119	3,777	
翌年度繰越収支差額		△ 6,177,633	△ 6,639,041	△ 6,964,685	△ 7,178,952	△ 7,725,074	

（参考）

事業活動収入計	6,595,950	6,520,522	6,426,602	6,256,676	6,192,445
事業活動支出計	6,310,551	6,516,423	6,603,864	6,574,302	6,583,949

貸借対照表の状況（令和２年度～令和６年度）

【新会計基準】

（資産の部）

（単位：千円）

資 産 の 部	科 目	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
	固定資産	22,588,683	22,948,044	22,484,705	22,184,488	22,132,339
	有形固定資産	16,448,320	16,338,439	15,874,594	15,282,277	14,963,177
	特定資産	3,356,763	3,674,101	3,691,488	3,708,542	3,725,545
	その他の固定資産	2,783,600	2,935,504	2,918,623	3,193,669	3,443,617
	流動資産	2,682,794	2,358,093	2,542,826	2,573,267	2,182,950
	合 計	25,271,477	25,306,137	25,027,531	24,757,755	24,315,289

（負債の部）

負 債 の 部	科 目	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
	固定負債	1,477,904	1,490,774	1,549,241	1,584,003	1,609,154
	流動負債	1,350,302	1,367,993	1,208,182	1,221,268	1,145,156
	合 計	2,828,206	2,858,767	2,757,423	2,805,271	2,754,310

（純資産の部）

純 資 産 の 部	科 目	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
	基本金	28,620,904	29,086,411	29,234,793	29,131,435	29,286,053
	繰越収支差額	△ 6,177,633	△ 6,639,041	△ 6,964,685	△ 7,178,951	△ 7,725,074
	合 計	22,443,271	22,447,370	22,270,108	21,952,484	21,560,979

負債及び純資産の部合計	25,271,477	25,306,137	25,027,531	24,757,755	24,315,289
-------------	------------	------------	------------	------------	------------

財務比率表（令和2年度～令和6年度）

事業活動収支計算書関係比率

No.	区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価	大学法人（全国）大
1	人件費比率 人件費 経常収入	57.3%	59.0%	58.8%	60.3%	60.2%	▼	50.6%
2	人件費依存率 人件費 学生生徒等納付金	75.5%	78.5%	78.3%	81.2%	81.5%	▼	68.5%
3	教育研究経費比率 教育研究経費 経常収入	32.9%	34.2%	36.0%	36.1%	37.8%	△	37.1%
4	管理経費比率 管理経費 経常収入	6.7%	7.5%	8.0%	8.8%	9.5%	▼	7.8%
5	借入金等利息比率 借入金等利息 経常収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	▼	0.1%
6	事業活動収支差額比率 基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	4.3%	0.1%	-2.8%	-5.1%	-6.3%	△	5.4%
7	基本金組入後収支比率 事業活動支出 事業活動収入－基本金組入額	102.2%	108.7%	105.2%	105.3%	109.1%	▼	104.1%
8	学生生徒等納付金比率 学生生徒等納付金 経常収入	75.9%	75.2%	75.1%	74.2%	73.9%	～	73.9%
9-1	寄付金比率 寄付金 事業活動収入	1.0%	1.0%	0.8%	0.7%	0.6%	△	2.8%
9-2	經常寄付金比率 教育活動収支の寄付金 経常収入	0.4%	0.5%	0.4%	0.5%	0.3%		1.6%
10-1	補助金比率 補助金 事業活動収入	17.6%	17.3%	18.8%	18.2%	19.5%	△	13.7%
10-2	經常補助金比率 經常費等補助金 経常収入	17.6%	17.3%	18.8%	18.2%	18.9%		13.8%
11	基本金組入率 基本金組入額 事業活動収入	6.4%	8.0%	2.3%	0.2%	2.6%	△	9.1%
12	減価償却額比率 減価償却額 経常支出	10.5%	11.1%	11.2%	10.7%	10.2%	～	11.6%
13	經常収支差額比率 經常収支差額 経常収入	3.0%	-0.8%	-3.0%	-5.3%	-7.7%	△	4.3%
14	教育活動収支差額比率 教育活動収支差額 教育活動収入計	2.5%	-1.4%	-3.5%	-5.9%	-8.5%	△	2.1%

注）經常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計 經常支出＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

注）寄付金＝教育活動収支の寄付金＋特別収支の施設設備寄付金＋特別収支の現物寄付

注）補助金＝教育活動収支の經常費等補助金＋特別収支の施設設備補助金

注）減価償却額＝教育研究経費の減価償却額＋管理経費の減価償却額

注）基本金組入額＝基本金組入額合計

活動区分資金収支計算書関係比率

No.	区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価	大学法人（全国）大
15	教育活動資金収支差額比率 教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	11.6%	10.2%	7.5%	6.0%	2.5%	△	13.7%

財務比率表（令和2年度～令和6年度）

貸借対照表関係比率

No.	区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価	大学法人（全国）
1	固定資産構成比率 固 定 資 産 総 資 産	89.4%	90.7%	89.8%	89.6%	91.0%	▼	85.9%
2	有形固定資産構成比率 有 形 固 定 資 産 総 資 産	65.1%	64.6%	63.4%	61.7%	61.5%	▼	57.8%
3	特定資産構成比率 特 定 資 産 総 資 産	13.3%	14.5%	14.7%	15.0%	15.3%	△	23.2%
4	流動資産構成比率 流 動 資 産 総 資 産	10.6%	9.3%	10.2%	10.4%	9.0%	△	14.1%
5	固定負債構成比率 固 定 負 債 総 負 債 + 純 資 産	5.8%	5.9%	6.2%	6.4%	6.6%	▼	6.8%
6	流動負債構成比率 流 動 負 債 総 負 債 + 純 資 産	5.3%	5.4%	4.8%	4.9%	4.7%	▼	5.0%
7	内部留保資産比率 運 用 資 産 - 総 負 債 総 資 産	21.1%	21.3%	23.0%	24.3%	24.5%	△	28.4%
8	運用資産余裕比率 運 用 資 産 - 外 部 負 債 経 常 支 出	1.26年	1.23年	1.26年	1.30年	1.30年	△	1.94年
9	純資産構成比率 純 資 産 総 負 債 + 純 資 産	88.8%	88.7%	89.0%	88.7%	88.7%	△	88.2%
10	繰越収支差額構成比率 繰 越 収 支 差 額 総 負 債 + 純 資 産	-24.4%	-26.2%	-27.8%	-29.0%	-31.8%	△	-17.7%
11	固定比率 固 定 資 産 純 資 産	100.6%	102.2%	101.0%	101.1%	102.6%	▼	97.4%
12	固定長期適合率 固 定 資 産 純 資 産 + 固 定 負 債	94.4%	95.9%	94.4%	94.3%	95.5%	▼	90.5%
13	流動比率 流 動 資 産 流 動 負 債	198.7%	172.4%	210.5%	210.7%	190.6%	△	279.4%
14	総負債比率 総 負 債 総 資 産	11.2%	11.3%	11.0%	11.3%	11.3%	▼	11.8%
15	負債比率 総 負 債 純 資 産	12.6%	12.7%	12.4%	12.8%	12.8%	▼	13.4%
16	前受金保有率 現 金 預 金 前 受 金	247.9%	192.0%	239.5%	308.5%	248.9%	△	414.8%
17	退職給与引当特定資産保有率 退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 退 職 給 与 引 当 金	55.1%	54.6%	52.4%	51.2%	50.7%	△	74.0%
18	基本金比率 基 本 金 基 本 金 要 組 入 額	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	△	97.6%
19	減価償却比率 減価償却累計額(図書を除く) 減価償却資産取得価額(図書を除く)	51.0%	51.9%	54.2%	56.6%	58.4%	～	55.4%
20	積立率 運 用 資 産 要 積 立 額	62.2%	60.3%	59.2%	59.1%	56.4%	△	75.3%

注) 純資産＝基本金＋繰越収支差額

注) 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

注) 外部負債＝借入金＋学校債＋未払金等

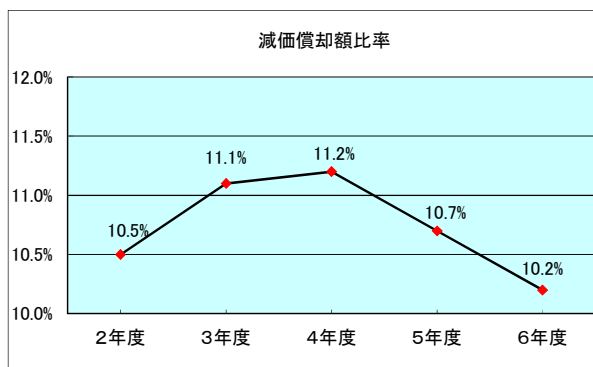
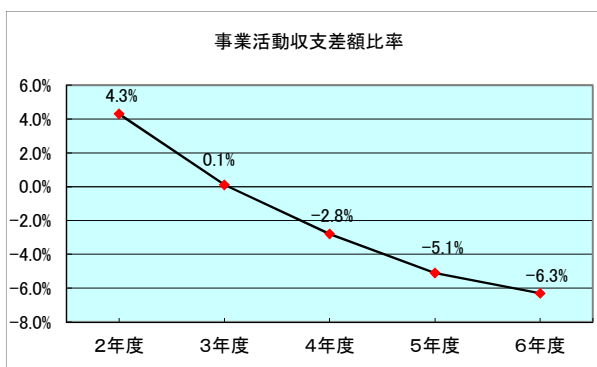
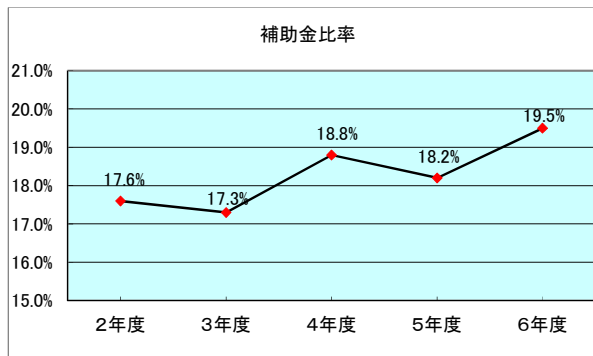
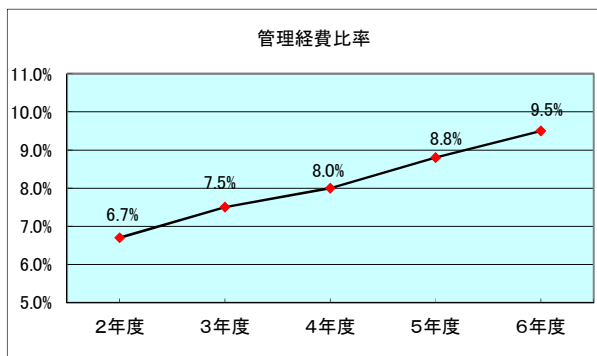
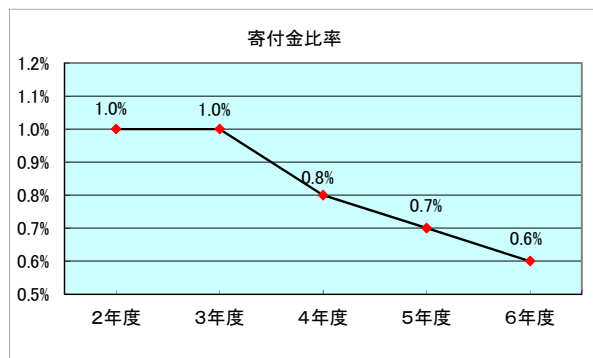
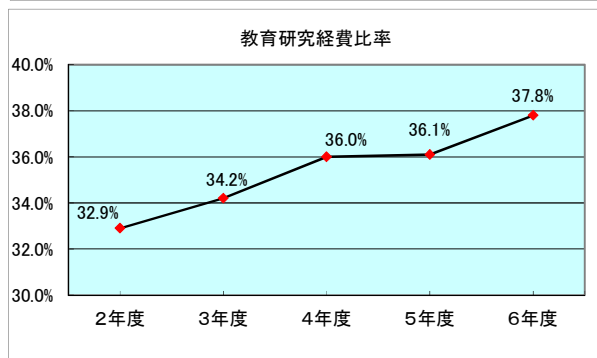
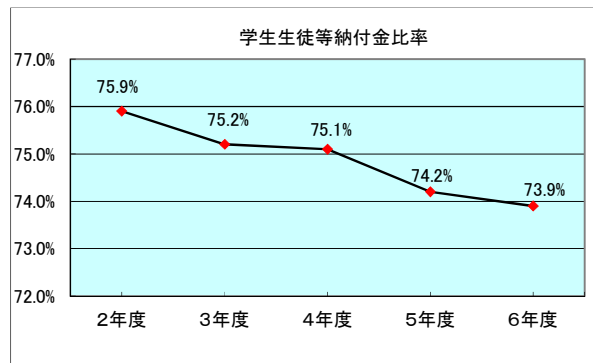
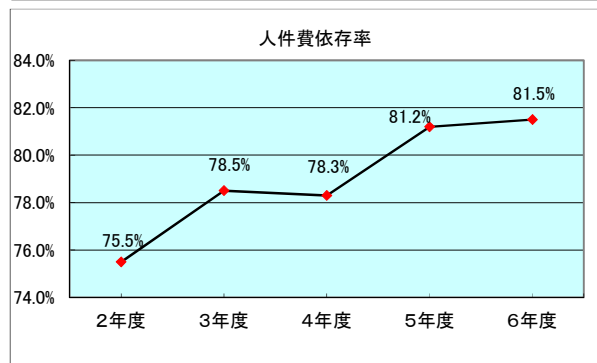
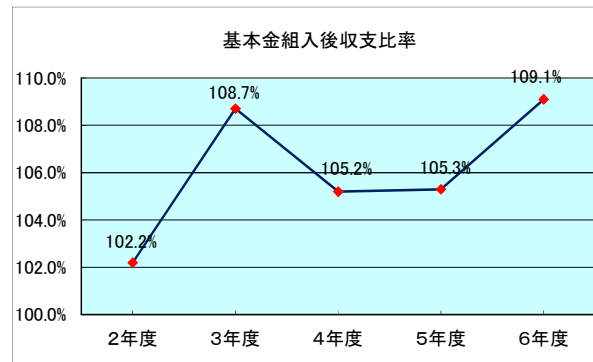
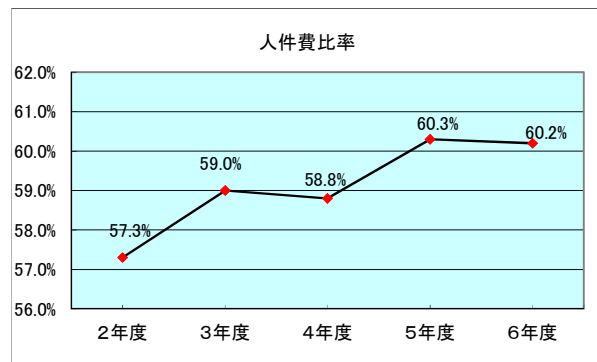
注) 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

注) 小数点以下第2位を四捨五入しています。

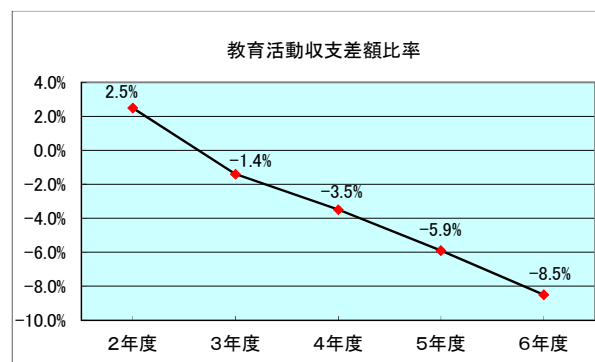
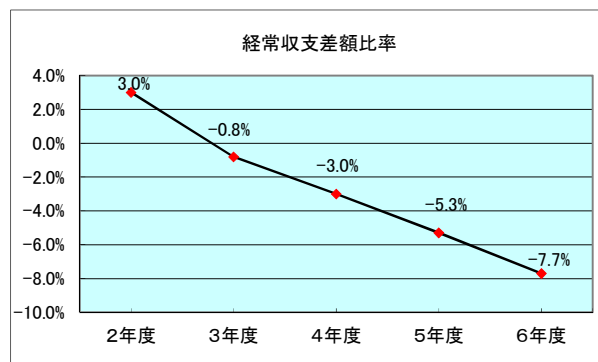
注) 大学法人（全国）・・・日本私立学校振興・共済事業団提供データ 令和5年度 理工他複数学部（全176法人）

経年推移グラフ（令和２年度～令和６年度）

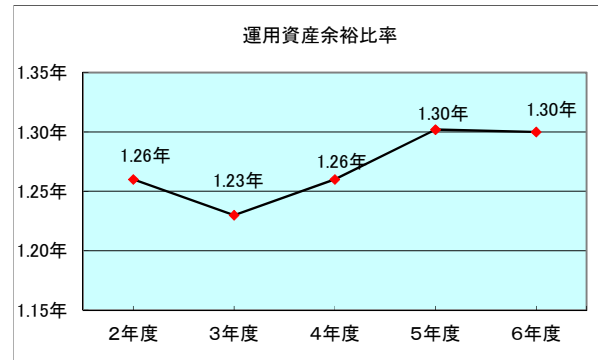
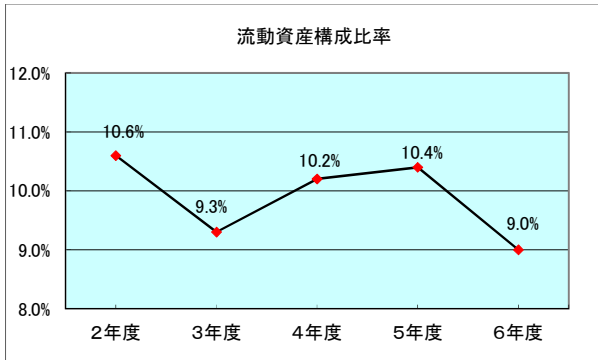
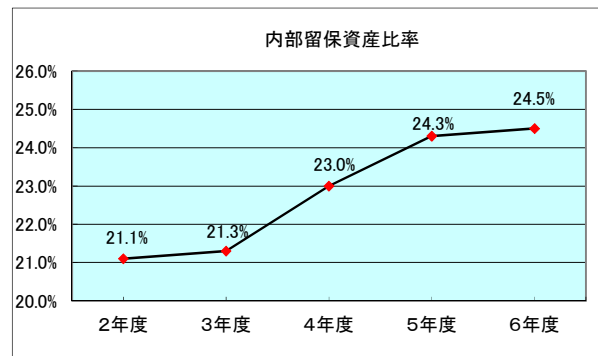
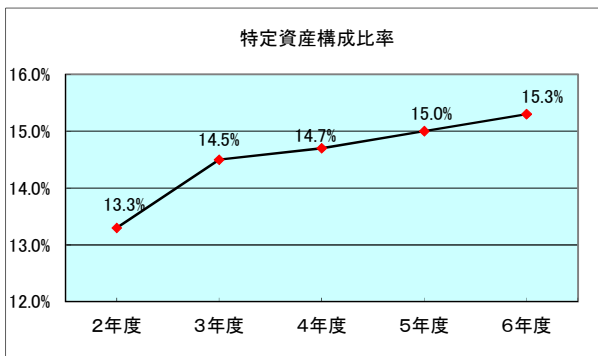
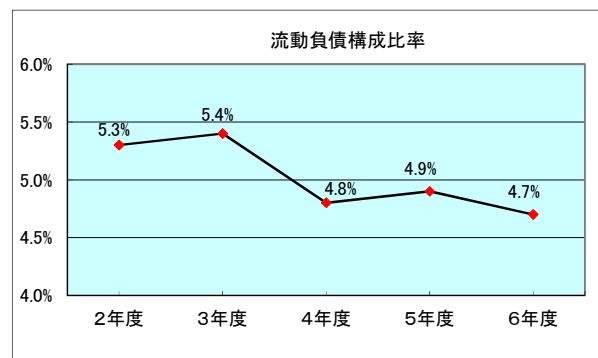
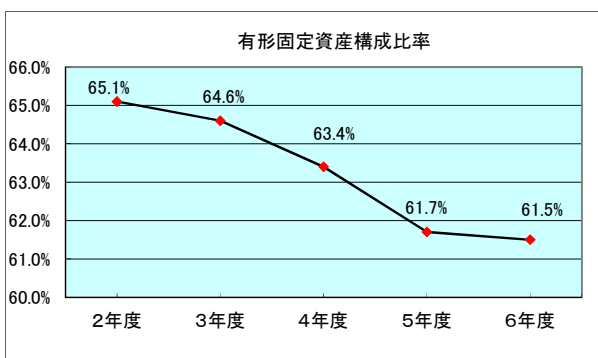
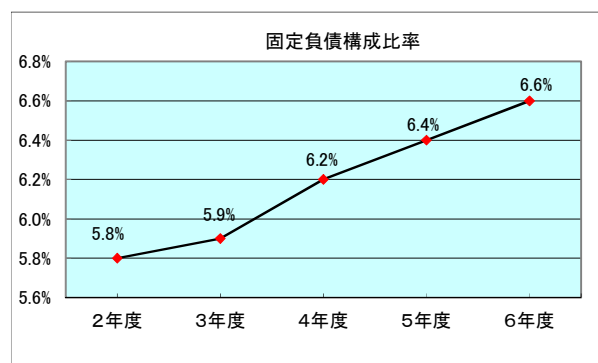
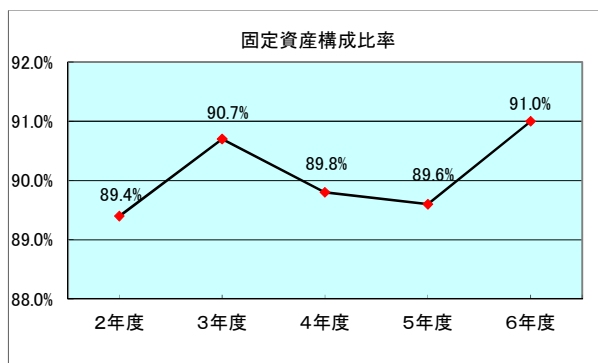
事業活動収支計算書関係比率



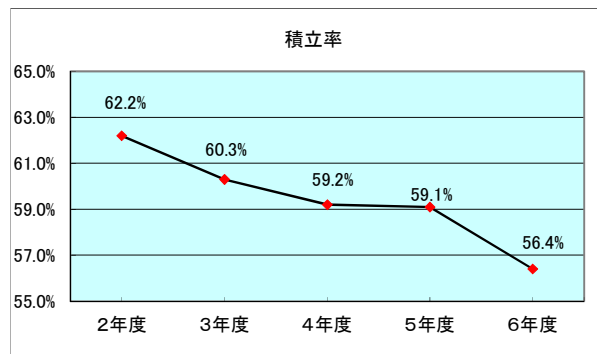
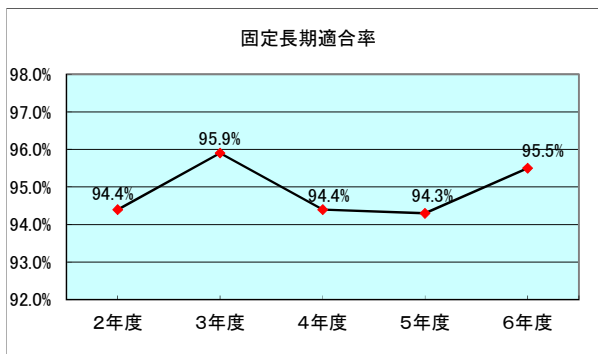
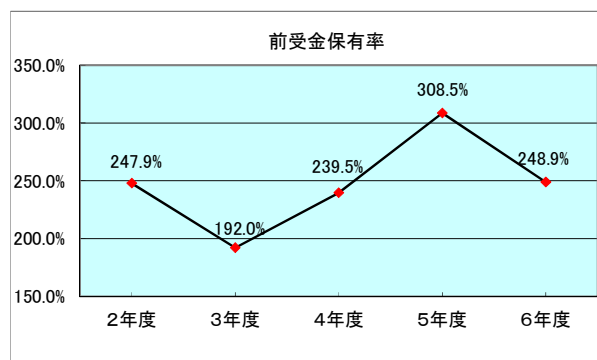
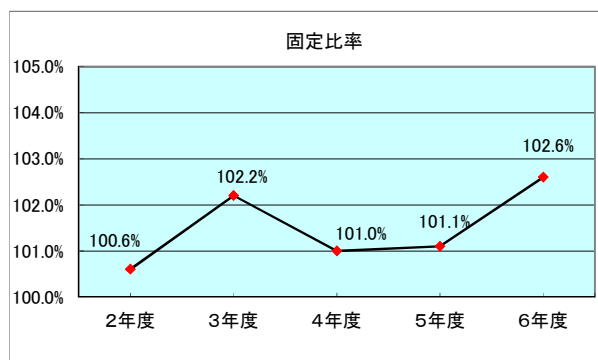
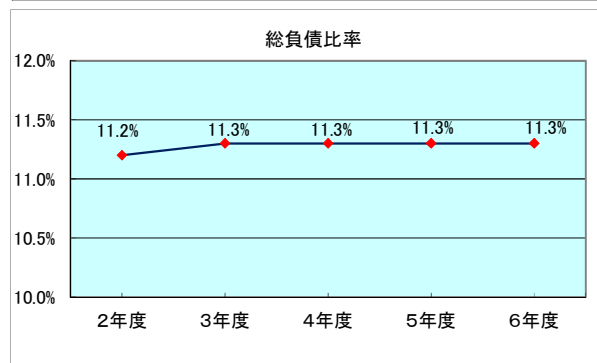
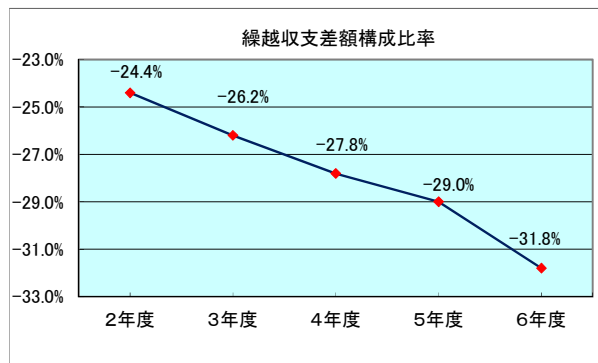
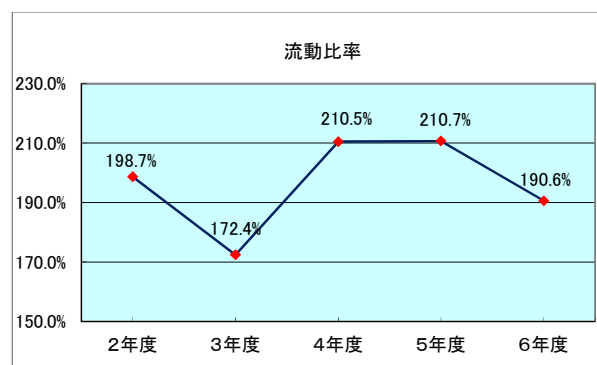
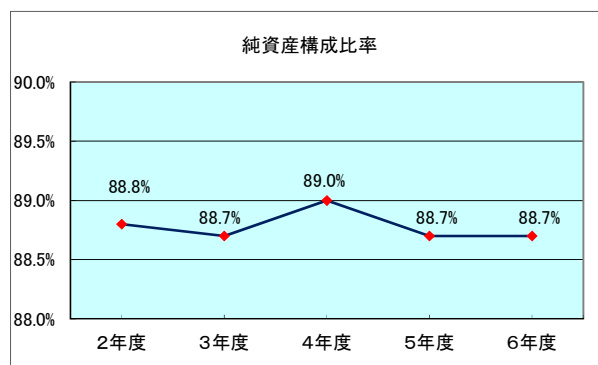
事業活動収支計算書関係比率



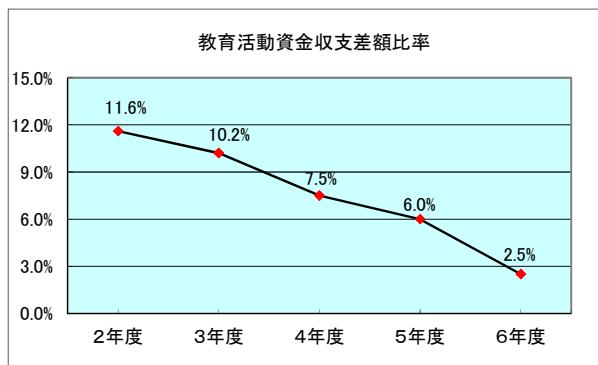
貸借対照表関係比率



貸借対照表関係比率



活動区分資金収支計算書関係比率



事業活動収支計算書関係比率の意味

1 人件費比率 【算出方法】人件費／経常収入

人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員1人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。

2 人件費依存率 【算出方法】人件費／学生生徒等納付金

人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。

3 教育研究経費比率 【算出方法】教育研究経費／経常収入

教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、保守点検委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。

4 管理経費比率 【算出方法】管理経費／経常収入

経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。

5 事業活動収支差額比率 【算出方法】基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入

事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収入超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。

6 基本金組入後収支比率 【算出方法】事業活動支出／（事業活動収入－基本金組入額）

事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。

7 学生生徒等納付金比率 【算出方法】学生生徒等納付金／経常収入

学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。

8 寄付金比率 【算出方法】寄付金／事業活動収入

寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に務めることの重要性が高まっている。

9 補助金比率 【算出方法】補助金／事業活動収入

国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。

10 基本金組入率 【算出方法】基本金組入額／事業活動収入

事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することになる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。

11 減価償却額比率 【算出方法】減価償却額／経常支出

減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。

12 経常収支差額比率 【算出方法】経常収支差額／経常収入

経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合である。この比率は臨時的な収支を考慮しない、通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は、財政がひっ迫していることを表しており、早急な改善が求められる。経営の健全性を表す代表的な指標であり、この比率が高ければ高いほど、経営に余裕があると考えられ、施設設備の取替更新や新規投資に向ける資金を確保できることになる。

13 教育活動収支差額比率 【算出方法】教育活動収支差額／教育活動収入計

学校本来の教育活動による収支差額の教育活動収入に対する割合である。本業である教育活動収入の範囲内で、どの程度余裕を持って運営できているかを把握することができる。経常収支差額比率と同様、この比率が高ければ高いほど、施設設備投資に充てる資金を確保できることになるが、教育研究の維持・発展のための経費が十分かつ効果的に支出されているかという観点からの判断も必要となる。

活動区分資金収支計算書関係比率の意味

1 教育活動資金収支差額比率 【算出方法】教育活動資金収支差額／教育活動資金収入計

教育活動資金収支差額の教育活動資金収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他の活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他の活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

貸借対照表関係比率の意味

1 固定資産構成比率 【算出方法】固定資産／総資産

固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなることが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。

2 有形固定資産構成比率 【算出方法】有形固定資産／総資産

有形固定資産の総資産に占める構成割合で、土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているかを評価する指標である。学校法人では教育研究事業に多額の施設設備投資を必要とするため、この比率が高くなることが財務的な特徴であるが、学校規模に比して設備投資が過剰となる場合は財政をひっ迫させる要因ともなるため、注意が必要である。

3 特定資産構成比率 【算出方法】特定資産／総資産

特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標である。一般的には、この比率が高い場合は中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。この比率が低い場合には主に二通りの評価が考えられる。一つは固定・流動を合わせた金融資産が少ないため特定資産の形成が困難な場合であり、資金の目的化以前に財政基盤の脆弱さ、資金の流動性の問題が懸念される。もう一つは金融資産は少なからず保有しているが特定資産を形成していない場合で、この場合は直ちに財政基盤が脆弱であるとはいえない。しかし近年では中長期的な視点にたった経営計画の策定と、経営計画の下支えとなる特定資産の重要性が高まっており、また保護者をはじめとした利害関係者への説明責任の観点からも計画的な特定資産形成が望ましい。

4 流動資産構成比率 【算出方法】流動資産／総資産

流動資産の総資産に占める構成割合で、固定資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。流動資産は現金預金と短期有価証券のほか、未収入金などで構成されている。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な資産の割合が大きく、資金流動

性に富んでいると評価できる。逆に著しく低い場合は、資金流動性に欠け、資金繰りが苦しい状況にあると評価できる。この比率が低い場合であっても、低金利下での有利な運用条件を求めて長期預金や長期有価証券を保有している場合や、将来的な財政基盤の安定化のために金融資産を目的化して特定資産化している場合には、必ずしも流動性に乏しいとはいえないため、特定資産や固定資産の有価証券の保有状況も確認して評価を行う必要がある。

5 固定負債構成比率 【算出方法】固定負債／（総負債＋純資産）

固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況の評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたり償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画上有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。

6 流動負債構成比率 【算出方法】流動負債／（総負債＋純資産）

流動負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に短期的な債務の比重を評価するものであり、固定負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。学校法人の財政の安定性を確保するためには、この比率が低い方が好ましいと評価できる。しかし流動負債のうち、前受金は主として翌年度入学生の納付金が入る内容であり、短期借入金とは性格を異にするものであるため、流動負債を分析する上では前受金の状況にも留意する必要がある。

7 内部留保資産比率 【算出方法】（運用資産－総負債）／総資産

特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。

8 運用資産余裕率 【算出方法】（運用資産－外部負債）／経常支出

「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が 1.0 を超えている場合とは、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。

9 純資産構成比率 【算出方法】純資産／（総負債＋純資産）

純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、もっとも概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に 50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。

10 繰越収支差額構成比率 【算出方法】繰越収支差額／（総負債＋純資産）

繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収入超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価となるおそれがある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。

11 固定比率 【算出方法】固定資産／純資産

固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、永続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。

12 固定長期適合率 【算出方法】固定資産／（純資産＋固定負債）

固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。

13 流動比率 【算出方法】流動資産／流動負債

流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。

14 総負債比率 【算出方法】総負債／総資産

固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。

15 負債比率 【算出方法】総負債／純資産

他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。

16 前受金保有率 【算出方法】現金預金／前受金

前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。この比率が100%を下回っている場合、1つには前受金として収受した資金を現金預金以外の形で保有し、短期的な運用を行っている場合であり、この場合は有価証券の状況を確認することで前もって収受している翌年度分の納付金が保有されていることを確認することとなる。もう1つは、翌年度分の納付金として収受した前受金に前年度のうちから手を付けている場合であり、この状況は資金繰りに苦慮している状態を端的に表しているものと見ることができる。

17 退職給与引当特定資産保有率 【算出方法】退職給与引当特定資産／退職給与引当金

退職給与引当金と特定資産中の退職給与引当特定資産の充足関係を示す比率で、将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているかを判断するものであり、一般的には高い方が望ましい。ただし、学校法人によって退職給与引当率に差異がある場合や、特定資産を形成せず現金預金・有価証券等の形で保有している場合もあり、この比率が低い場合は退職給与引当金の財源をどのように確保しているか、学校法人の状況を念頭において評価する必要がある。

18 基本金比率 【算出方法】基本金／基本金要組入額

基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。しかし、仮に100%である場合でも繰越事業活動収支差額において支出超過となっている場合、累積した支出超過が基本金を毀損していることとなるため、繰越事業活動収支差額の状況も併せて評価する必要がある。

19 減価償却比率

【算出方法】減価償却累計額（図書を除く）／減価償却資産取得価額（図書を除く）

減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。

20 積立率 【算出方法】運用資産／要積立額

学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要な資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の使途の指定状況が一樣ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に使途の異なる要素が混在することになるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的に比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分

にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。